

専門研修課程Ⅰ及び更新研修（専門研修課程Ⅰと同内容）

科 目	目 的	内 容	時間数
○ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定	介護支援専門員としての実践の振り返りを通じて、ケアマネジメントプロセスを再確認した上で、専門職としての自らの課題を理解する。	・各自の実践を省みる事により、ケアマネジメントプロセスにおける各項目の持つ意味と重要性に関して再確認し課題等を認識するための講義を行う。 ・専門職としての知識・技術を高めていく上での克服すべき課題等を認識する講義を行う。 ・振り返りに当たっては、担当事例を活用することとし、担当事例におけるケアマネジメントの視点（アセスメントの結果から課題（ニーズ）を導き出すまでの考え方、当該課題（ニーズ）に対するサービスの選定理由等）を発表し、他の受講者との意見交換を通じて、自分自身の技 量における課題を認識・理解する。	講義及び 演習 12 時間
○介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状	介護保険制度の最新の動向や地域包括ケアシステムの構築に向けた現状の取組を理解した上で、今後の地域包括ケアシステムの展開における介護支援専門員としての関わりを理解する。また、地域包括ケアシステムの中で、利用者及びその家族を支援していくに当たって、関連する制度等を理解する。	・介護保険制度の改正等の状況や地域包括ケアシステムの構築に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であることから、利用者の家族も含めた支援に関連する各種制度や社会資源に関する講義を行う。 ・フォーマルだけでなくインフォーマルな社会資源との連携やそれらの活用と働きかけに関する講義を行う。	講義 3 時間
○対人個別援助技術 及び地域援助技術	対人個別援助技術（ソーシャルケースワーク）と地域援助技術（コミュニティソーシャルワーク）の違いと役割を理解する。	・対人個別援助技術（ソーシャルケースワーク）の考え方と地域援助技術（コミュニティソーシャルワーク）の概念・機能・目的に関する講義を行う。 ・対人個別援助技術（ソーシャルケースワーク）に必要な知識・技術及び地域援助技術（コミュニティソーシャルワーク）の展開技法についての講義を行う。 ・個別事例の支援から地域課題の把握課題の共有、課題解決に向けた地域づくりや資源開発などに至る一連のプロセスに関する講義を行う。 ・実際に取り組む場である地域ケア会議の意義や機能及び一連のプロセスの中における介護支援専門員としての役割に関する講義を行う。 ・個別事例の支援や地域課題の把握から解決に向け、保険者を含む多職種連携の意義やネットワーク作りの視点と方法に関する講義を行う。	講義 3 時間
○ケアマネジメントの実践における倫理	ケアマネジメントを実践する上で感じた倫理的な課題を踏まえ、チームで対応していく際のチームアプローチの方法及び高齢者の権利を擁護する上で必要な制度等を理解する。	・ケアマネジメントを実践する上での介護支援専門員としての倫理原則（利用者本位、自立支援、人権の尊重、公正中立等）に関する講義を行う。 ・ケアマネジメントを実践する上で生じうる具体的な倫理的課題に対する心構えや対応方法についての講義を行う。 ・利用者の人権と倫理に配慮した意思決定のプロセスに関する講義を行う。 ・倫理的な課題に対するチームアプローチの重要性を認識し、その手法に関する講義を行う。 ・成年後見制度や高齢者虐待防止法等、高齢者の尊厳や	講義 2 時間

科 目	目 的	内 容	時間数
○ケアマネジメン トに必要な医療と の連携及び多職種 協働の実践	実践を通じて感じた医 療との連携や多職種協働 に関する課題を踏まえ、 今後の実践に向けて必要 な知識・技術を理解する。	権利擁護に関する講義を行う。 ・ケアマネジメン トを実践する上で必要な疾病や医療 との連携、多職種協働の必要性・重要性を再確認する ための講義を行う。 ・これまでの実践を省みて課題を認識し、医療との連携 や多職種協働を実践していくための課題解決の方法 に関する講義を行う。 ・介護支援専門員から医療機関や多職種に情報を提供 する際の留意点及び、医療機関や多職種から情報を収 集する際の留意点についての講義を行う。 ・サービス担当者会議や地域ケア会議における多職種 との効果的な協働の手法に関する講義を行う。	講義 4 時間
○ケアマネジメン トの演習・リハビ リテーション及び 福祉用具の活用に 関する事例	リハビリテーションや 福祉用具等の活用が有効 な事例を用いて講義・演 習を行うことにより、リ ハビリテーションや福祉 用具等の活用に係る知識 及びケアマネジメン ト手法を修得する。	・リハビリテーション（口腔リハビリテーションを含 む。）や福祉用具等に関する基 礎知識の向上と活用 に当たっての基本的な視点に関する講義を行う。 ・リハビリテーション専門職並びに福祉用具専門相談 員等との連携方法等に関する講義を行う。 ・リハビリテーションや福祉用具等の活用に関する事 例を用いて、適切なアセスメントを行う際の重要なポ イントや地域の社会資源を活用したケアマネジメン トを実践する知識・技術を修得する。 ・1 つの事例について様々な状況等を勘案した、実践し うる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討 できるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義及び 演習 4 時間
・看取り等におけ る看護サービスの 活用に関する事例	看護サービスの活用が 必要な事例を用いて講 義・演習を行うことによ り、看護サービスの活用 に係る知識及びケアマネ ジメン ト手法を修得す る。	・看護サービスに関する基礎知識の向上と活用 に当たっての基本的な視点に関する講義を行う。 ・訪問看護計画との関連付けや看護職との連携方法等 に関する講義を行う。 ・看取り等における看護サービスの活用に関する事例 を用いて、適切なアセスメントを行う際の重要なポ イントや地域の社会資源を活用したケアマネジメン トを実践する知識・技術を修得する。 ・1 つの事例について様々な状況等を勘案した、実践し うる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討 できるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義及び 演習 4 時間
・認知症に関する 事例	認知症に関する事例を 用いて講義・演習を行う ことにより、認知症に関 する知識及び認知症の要 介護者等に有効なサービ スを活用したケアマネジ メン ト手法を修得する。	・認知症や精神疾患に関する医学的・心理的基礎知識の 向上と認知症施策に関わる多職種との連携方法等 に関する講義を行う。 ・認知症等の特質性を踏まえた早期の対応方法や家族 も含めた支援方法などを修得するとともに、地域で生 活を継続していくための支援を行う上で必要な視点 を理解する。 ・認知症に関する事例を用いて、認知症に鑑みた適切な アセスメントを行う際の重要なポイントや、地域の社 会資源を活用したケアマネジメン トを実践する知識・ 技術を修得する。 ・1 つの事例について様々な状況等を勘案した、実践し うる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討 できるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義及び 演習 4 時間
・入退院時等にお ける医療との連携 に関する事例	入退院時等における医 療との連携に関する事例 を用いて講義・演習を行	・高齢者に多い疾病の特徴とその対処法、感染予防に関 する講義を行う。 ・医療職（特に主治医）や医療機関との連携方法等に関	講義及び 演習 4 時間

科 目	目 的	内 容	時間数
	うことにより、医療との連携に必要な知識及び医療との連携を踏まえたケアマネジメント手法を修得する。	する講義を行う。 ・入退院時等における医療との連携に関する事例を用いて、適切なアセスメントを行う際の重要なポイントや、社会資源を最大限に活用したケアマネジメントを実践する知識・技術を修得する。 ・1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。	
・家族への支援の視点が必要な事例	家族への支援の視点が必要な事例を用いて講義・演習を行うことにより、家族への支援の視点も踏まえたケアマネジメント手法を修得する。	・単なるレスパイトだけでなく今後の介護に対する不安や利用者、家族同士の軋轢への介入など家族支援における基本的な視点に関する講義を行う。 ・関係行政機関等との連携方法、家族支援に有効な制度等についての講義を行う。 ・障害等のある家族や働きながら介護を担う家族に対する支援が必要な事例などを用いて、適切なアセスメントを行う際の重要なポイントや、地域の社会資源を最大限に活用したケアマネジメントを実践する知識・技術を修得する。 ・1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義及び演習 4 時間
・社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、利用者が活用しうる制度に関する知識及び関係機関等との連携を踏まえたケアマネジメント手法を修得する。	・生活保護制度、障害者施策、成年後見制度などの他法他施策に関する制度の知識やインフォーマルサービスの活用に係る視点に関する講義を行う。 ・虐待が発生している事例、他の制度（生活保護制度、成年後見制度等）を活用している事例、インフォーマルサービスを提供する事業者との連携が必要な事例等を用いて、適切なアセスメントを行う際の重要なポイントや、地域の社会資源を最大限に活用したケアマネジメントを実践する知識・技術を修得する。 ・1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義及び演習 4 時間
・状態に応じた多様なサービス（地域密着型サービス、施設サービス等）の活用に関する事例	状態に応じた多様なサービス（地域密着型サービス、施設サービス等）の活用に関する事例を用いて講義・演習を行うことにより、介護保険で提供される地域密着型サービス等の活用に係る知識及びケアマネジメントの手法を修得する。	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護や複合型サービスなど新しく導入されたサービス及び小規模多機能型居宅介護の意義・効果に関する講義を行う。 ・これらのサービスを活用する際の視点の重要性や連携方法等についての講義を行う。 ・状態に応じた多様なサービス（地域密着型サービス、施設サービス等）の活用に関する事例を用いて、適切なアセスメントを行う際の重要なポイントや、地域の社会資源を最大限に活用したケアマネジメントを実践する知識・技術を修得する。 ・1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策（居宅サービス計画、施設サービス計画の作成）が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。 ・その他、施設サービス等を活用する際の留意点等について理解する。	講義及び演習 4 時間
○個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習	指導・支援、コーチング、スーパービジョン等の違いを踏まえ、自らが	・個人で専門性を高めていく際に必要な視点、手法に関する講義を行う。 ・指導・支援、コーチング、スーパービジョン等の基本的な考え方、内容、方法を理解	講義 2 時間

科 目	目 的	内 容	時間数
	それらを受ける際の心構えや、専門職として不断に自己研鎖を行うことの重要性を理解する。	するとともに、これらを受ける側と行う側双方に求められる姿勢に関する講義を行う。 ・個人で研鎖する場合と介護支援専門員間 相互で研鎖する場合に求められる内容や手法とその関係性についての講義を行う。 ・専門職として継続した自己研鎖を行うことの必要性・重要性について講義を行う。	
○研修全体を振り返つての意見交換、講評及びネットワーク作り	研修全体を通じた振り返りを行うことで、今後の学習課題を認識し、自己研鎖の意欲を高める。 また、研修受講者間でのネットワークの構築を図る。	・研修全体の振り返りを行うに当たって、グループ又は全体で意見交換を行い、専門的助言を含めて、研修における学習の成果や今後の学習課題への意識付けのための講評を行う。 ・現場で生じうる課題への対応や共同で研修する機会を作るため、研修受講者間においてネットワークの構築を図る。	講義及び 演習 2 時間